

中学校の武道教育における日本剣道形の電子指導書のデザイン

彦坂 和里† 西尾 典洋‡ 杉山 岳弘† 白井 靖人† 杉山 融†

静岡大学† 目白大学‡

1. 背景と目的

2012年度より中学校第1,2学年の保健体育で武道(剣道を含む)が必修となった。剣道の場合, 教員の剣道経験の浅さの問題に加え, 竹刀稽古では防具の着脱などにより, 剣道の実質的な学習に当てられる時間が少ないなどの問題がある。

また, 剣道に関する既存の教材については, 文章と図・写真による解説¹⁾やビデオによる解説²⁾もあるが, 表現や閲覧, 検索機能に限界があり教員が所作や連続仕草の関係性を正確に把握するのは難しい。

そこで, 本研究では, 中学校の武道(剣道)教育を竹刀稽古ではなく日本剣道形で実施することを目指し, 電子教材の基礎的な構築を行ってきた^{3,4)}。

本稿では, この電子教材を, 剣道初心・初級者の体育教員でも授業で活用できる電子指導書へ発展させるため, 中学校レベルの指導における指導書に必要な要素を分析し, 電子指導書をデザインする。

2. 電子指導書に必要な項目と要素の検討

電子教材を電子指導書へ発展させるにあたり, 次の2つの条件を満たす必要があると考える。

- (1) 剣道形の指導書として妥当な水準を満たすこと
- (2) 剣道初心・初級者の教員でも活用できること

2.1 条件(1)(2)に関する検討

(1)の「妥当な水準」とは, 文部科学省の定める学習指導要領を満たす, 剣道形の習得上必要な項目および要素や一般的にいう指導書として必要な要素が含まれていることとする。習得上必要な項目と要素については全剣連発行の指導書および本研究で構築した電子教材, 監修を担当する杉山(2012)⁵⁾の解説から抽出を行う。抽出結果を表1に示す。

一般的な指導書に含まれる要素について, いくつかの教科指導書の内容をもとに検討を行い, 本研究では授業計画案(単元全体の計画), 指導案(各授業の計画), 教材解説(剣道形に関する解説), 用語集(指導書内の用語索引)で構成することとする。本研究の電子教材を, 指導書として発展させるため, これまでの教材の評価⁴⁾を元に授業計画案と指導案を追加していく。さらに, 教材解説については, 剣道初心・初級者の体育教員でも理解し活用できるよう, コンテンツを活かした具体的な指導法を指導案として解説を追加する。

The design of the electronic manual for successful Nippon Kendo Kata lessons in the Budo education at junior high schools

† HIKOSAKA Airi, SUGIYAMA Takahiro, SHIRAI Yasuto, SUGIYAMA Toru / Shizuoka University

‡ NISHIO Norihiro / Mejiro University

(1)の学習指導要領との整合性と(2)の条件については, 剣道高段者による判断が必要であるが, すでに, 2013年6月に浜松市立中学校の剣道部顧問(剣道教士7段)による評価を実施している⁴⁾。その結果, 「礼法と用語集の解説内容が不十分」, 「手本例・正しくない例の図があるとよい」などのコメントが得られた。改善策として図を追加するなどが考えられる。

表1 剣道形の習得上必要な項目とその学習要素

習得上必要な項目	学習要素
日本剣道形の知識	日本剣道形を学ぶ意義
立会前後の作法(礼法)	考え方, 立礼, 座礼, 提刀, 帯刀, 蹲踞
木刀の持ち方	基本姿勢での持ち方, 晴眼の構えを中心とした持ち方, 抜刀, 納刀
足さばき	すり足, 歩み足, 踏み込み方
各構え方	特徴, 考え方, 構え方
掛声	考え方, 掛声の出し方
剣道形所作(1本目~5本目)	各本目の所作, 考え方(理合)

3. 電子指導書のデザイン

前述の条件を満たす電子指導書の構成と要素をもとに, 剣道初心・初級者の体育教員でも授業で活用できるコンテンツと表現についてデザインしていく。

本電子指導書の利用イメージとして, 教員が電子指導書で事前に知識を得た後, 授業計画案から授業全体の構成を考え, 指導案をもとに各授業の詳細な計画と剣道形の各項目の知識と身体動作の要素を指導する方法を考え, 指導書の教材を授業中に使って自らの所作に反映させる方法や手本などを生徒へ提示しながら指導することを想定している。

3.1 電子指導書のコンテンツデザインと表現

剣道初心・初級者の体育教員が, 利用イメージのように電子指導書を利用できるようにするために, 剣道形の知識と身体動作および考え方を順序立てて習得できるよう授業計画案および指導案を構成し, さらに, 授業で正確に身体動作を教えられるように図や写真や映像を分かりやすく構成したコンテンツをデザインする。

【授業計画案・指導案】

表1の剣道形の習得上必要な項目と要素と並び順をもとに, 中学校3年間を通して剣道形五本目まで指導できる構成として授業計画案および指導案を作成する。図1,2に第1学年の授業計画案と指導案を一部抜粋して示す。

時数	ねらい	学習活動
1	・日本剣道形と礼法について知る ・剣道の楽しさを知る	<ul style="list-style-type: none"> ■オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・日本剣道形とは ・学ぶ意義 ・準備運動 ■基本動作の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・木刀の握り方 ・正座 ・座礼 ・礼法の考え方 ・立礼 ■次回への導入 <ul style="list-style-type: none"> ・すり足レース
2 3	・木刀の扱い方と基本動作を知る	<ul style="list-style-type: none"> ■基本動作の練習 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動 ・1時限目の復習 ・木刀の持ち方 ・すり足 ・抜刀と納刀 ・蹲踞 ・暗眼の構え ・掛声

図1 授業計画案の一部

時数 1/12時限
本時のねらい (1) 剣道の特性や成り立ち、日本剣道形を学習する意義を理解できるようにする。
(2) 授業の進め方や約束事を理解し、健康・安全に気を配って学習できるようにする。

時間配分	学習内容	指導書参照頁	指導上の留意点	評価規準
導入 20分	1 集合、整列、挨拶 2 出欠確認、健康観察 3 本時の学習内容の確認 4 オリエンテーション ・剣道の歴史、特性、伝統的な考え方 ・木刀の知識 ・日本剣道形を学習する意義やねらい ・授業の約束事の確認 5 準備運動	pp.1・5	<ul style="list-style-type: none"> ■挨拶は元氣よく行わせる。 ■健康観察、服装確認を行う。 ■剣道の学習の流れについて説明する。 ■日本剣道形を学習することは礼法を身につけるなど人間として望ましい自己形成を重視する考えがあることを理解させる。 ■木刀について説明する。 ■剣道に取り組む前からのマイナスイメージや、不安を持っている生徒がいることから、発問をしながら剣道の良さや魅力に気づかせる。 ■木刀の握り方(人や物を掴まない、握間に気をつけて握古する等)を説明し、事故防止のための約束事を確認する。 ■膝を痛めないよう屈伸運動を特に入念に行わせる。 	【知識・理解】 剣道の歴史や特性、礼法的重要性について理解できているか。
展開 25分	6 木刀の持ち方 ・木刀の握り方の練習 ・木刀を持ちながら屈伸運動	p.12	<ul style="list-style-type: none"> ■指導書内の解説内容に注意しながら正しい持ち方を全体で確認し指導する。 ■ペアを作り、教師の号令に合わせて屈伸運動を行う。 	

図2 指導案(1時限目)の一部

【コンテンツ表現】

剣道形の身体動作は連続動作で個々の動作に意味があるため、テキスト解説のみでは連続仕草やその関係性を正確に理解することが難しい。そのため、図や映像を用いて学習コンテンツを表現する。表現一覧を表2に示す。

表2 コンテンツの表現方法一覧

表現方法名称	表現内容	使用箇所
①手本映像	横から全体を収録した所作の流れを確認するための映像	礼法、剣道形
②3画面同期再生映像	手本映像、仕太刀と打太刀の正面の3つの映像を同期再生できる映像	剣道形
③正中線映像	仕太刀正面の映像に中心線をつけ、手本と初心者と比較できる映像	剣道形
④比較映像	手本映像中の動作を追跡し補助線をつけ、手本と初心者と比較できる映像	剣道形
⑤道具や動作のモデル図	木刀の名称図や足の動かし方の図等	用語集
⑥手本例・正しくない例	手本例・正しくない例を比較できる図	用語集
⑦インテラクティブイメージ	前後左右4方向から確認できる図	構え方

①で全体の動作の流れを学習した後、②、③、④を通して所作を様々な角度から身体の空間的な位置関係を把握し、指導ポイントや気づきにくい誤った所作を確認できるようにする。⑤は木刀の名称図などをイラストや写真を用いて解説する。⑥は図3のように図内に補助線を入れ、簡明な解説を記載する

ことで、正しい所作の理解につながると考える。また、解説文の内容についても見直し、監修担当者の観点をもとに修正し、下段の構えでの剣先の位置などといった一般的な解説書では学べない知識も含めている。⑦では構え方を前後左右4方向から観察することで着目すべきポイントを学習できる。

剣先を相手の左拳につける

日本剣道形五本目において、[日]の諸手左上段に対し、[仕]は手元をやや前に移行して構え、剣先は[日]の左拳につける。



図3 手本例・正しくない例

3.2 構築した電子指導書に関する考察

まず、剣道形の導入の有効性について、電子指導書の指導案を作成することによって、従来の竹刀稽古の授業との時間配分の比較が可能となった。先行研究³⁾にて視察した福島県のA中学校の第1学年の授業の時間配分において、準備および防具の着脱に約30分が充てられていたが、剣道形での授業では、防具が不要で体操着のまま行えるため、準備時間のみ必要で、15分程度と考えられ、15分程度は多く実質的な指導に充てられると考える。仮に10回の授業でも積み上げると150分程度となりこの差は大きい。

次に、身体動作を伴う授業において、従来型の紙の指導書と、電子指導書を活用した授業の有効性を考察する。電子指導書では、学習時に映像や図による所作の確認やリンクされた知識を辿ることで内容理解を深められ有効であると考えられる。

4. まとめ

これまで構築してきた電子教材を、授業現場で活用できる剣道初心・初級者の体育教員向けの電子指導書にするため分析を行い、その結果をもとに電子指導書をデザインした。今後は、実際の現場で活用できるか、他の問題点の解決に有効かを検証する。

謝辞

評価にご協力いただいた剣道部顧問に感謝の意を表す。本研究は科研費基盤(C)24500695による。

参考文献

- 1) 文部科学省:学校体育実技指導資料第1集「剣道指導の手引」(取得日:2014年1月9日)
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyuitsu/1306064.htm
- 2) 全日本剣道連盟:DVD 日本剣道形(2004)
- 3) 平野他:日本剣道形において用いられる技の指導支援のためのマルチモーダル型コンテンツのデザイン, Design シンポジウム 2012 論文集, pp.305-308 (2012)
- 4) 彦坂他:中学校の武道教育における日本剣道形の指導支援のための電子教材の評価, 日本教育工学会第29回全国大会講演論文集, pp.483-484 (2013)